

CASBEE-建築(新築)2024年版
(仮称)舞鶴市立中央図書館新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q1 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境			0.40		-			3.3
1 音環境		3.8	0.15		-			3.8
1.1 室内騒音レベル	外壁材+断熱材にて遮音性能向上に努める。	3.0	0.40		-			
1.2 遮音		5.0	0.40		-			
1 開口部遮音性能	主要部ガラス厚8mm+8mmの間に空気層を加え遮音性能向上に努める。	5.0	1.00		-			
2 界壁遮音性能	GW敷込にて遮音壁を設置。				-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	主要部2階床仕上げをタイルカーペットとし軽量音を緩和。				-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	コンクリートスラブにて区画し、重量音緩和				-			
1.3 吸音	静かさの必要な部屋には吸音ボードを天井に使用。	3.0	0.20		-			
2 温熱環境		3.0	0.35		-			3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50		-			
1 室温	不快感のない空調計画。ペリメーターゾーンをケアした空調計画。	3.0	0.38		-			
2 外皮性能	断熱材の充填、Low-Eガラスの使用。	3.0	0.25		-			
3 ゾーン別制御性	ペリメーターゾーン空調を考慮した計画	3.0	0.38		-			
2.2 湿度制御	全熱交換機採用の計画	3.0	0.20		-			
2.3 空調方式	吹き出し位置を考慮した計画	3.0	0.30		-			
3 光・視環境		2.7	0.25		-			2.7
3.1 昼光利用		2.2	0.30		-			
1 昼光率	-	1.0	0.60		-			
2 方位別開口	-				-			
3 昼光利用設備	ハイサイドライトの採用	4.0	0.40		-			
3.2 グレア対策					-			
1 昼光制御	庇による抑制。2階はブラインドによる抑制				-			
3.3 照度	必要箇所に適宜照明の設置。	3.0	0.20		-			
3.4 照明制御	エリアごとの制御。	3.0	0.50		-			
4 空気質環境		4.2	0.25		-			4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.50		-			
1 化学汚染物質	全面にF☆☆☆☆を使用	5.0	1.00		-			
4.2 換気		3.0	0.30		-			
1 換気量	建築基準法を満たす換気量となっている。	3.0	0.33		-			
2 自然換気性能	自然換気にて基本居室は換気を行う。	3.0	0.33		-			
3 取り入れ外気への配慮	設備スペースにて計画。	3.0	0.33		-			
4.3 運用管理		4.0	0.20		-			
1 CO ₂ の監視	手動計測が前提となる。	3.0	0.50		-			
2 喫煙の制御	全館禁煙である	5.0	0.50		-			
Q2 サービス性能			0.30		-			3.3
1 機能性		3.6	0.40		-			3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-			
1 広さ・収納性	-				-			
2 高度情報通信設備対応	-				-			
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30		-			
1 広さ感・景観	各室に窓を配置。				-			
2 リフレッシュスペース	2階の窓の多い位置に職員休憩スペースを設置。				-			
3 内装計画	パースでの検討、他	3.0	1.00		-			
1.3 維持管理		5.0	0.30		-			
1 維持管理に配慮した設計	内壁・床面に防汚性・防水性の高い仕上げを採用、壁掛けの便器を	5.0	0.50		-			
2 維持管理用機能の確保	十分なスペースの清掃員控室、掃除用具入れの確保。	5.0	0.50		-			
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30		-			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80		-			
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30		-			
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20		-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.20		-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	亜鉛鉄板製	3.0	0.10		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	排水用耐火二層管、硬質塩化ビニル管、冷媒用被覆銅管	5.0	0.20		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	耐久性の高いものを使用。	3.0	0.20		-			
2.4 信頼性		2.0	0.20		-			
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20		-			
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20		-			
3 電気設備	-	1.0	0.20		-			
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20		-			
5 通信・情報設備	-	1.0	0.20		-			

3	対応性・更新性		3.3	0.30	-	-	3.3
	3.1 空間のゆとり		4.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	天井の高い計画を行う。	-	-	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.14	4.0	1.00	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.3
1	生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	庇・エントランスひろばを設計、市民活躍ルームなど	5.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	夜間照明・防犯カメラの設置	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.2
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		1.0	0.20	-	-	1.0
2	自然エネルギー利用(直接利用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI:0.48	4.0	0.50	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価		4.0	-	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	効率的運用に向けた取組み		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.67	-	-	
	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大		3.0	0.17	-	-	
	4.4 コミッシュニングの推進		3.0	0.17	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.3
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	自動水栓	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.2	0.60	-	-	3.2
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	京都府産材木材の利用。	5.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.6	0.20	-	-	3.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	全てF☆☆☆☆とする。	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
	3 冷媒		-	-	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮	CO2排出率68%	4.3	0.33	-	-	4.3
2	地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	駐輪場、駐車場の設置。	5.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	0.33	-	-	
	2 振動		3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2024年版

(仮称)舞鶴市立中央図書館新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	10.0	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	12.0	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	2.0	-	2.0	-	-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	6.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	9.0	-	2.0	1.0	-	2.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	2.0	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	17.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0	-	-	-	-	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.7	窓の日射熱取得率(η)	0.4
U値(W/m2K)	窓システム 1.6	屋根	0.2
		外壁	0.2
		床	0.5
住戸部分 窓システムU値	-	外皮UA値	-
		ηAC	-
		ηAH	-
昼光率	0.2%		
自然換気性能			
自然換気有効開口面積率	5.0%		

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	.0m ² /人	病床	.0m ² /床	シングル	.0m ² ツイン	.0m ²	
コンセント容量	0.0 VA/m ²						
天井高	2.7m	m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%				
想定耐用年数	0年						
想定必要間隔	0年						
想定必要間隔	0年						
想定必要間隔	0年						
階高	4m						
壁長さ比率	13.8%						
床荷重	- N/m ²						
外構緑化指数	22%	建物緑化指数	1%				
空地率	40%	水平投影面積率	5%	地表面对策面積率	25%	舗装面積率	55%
BPI/BPI _m	-	断熱等性能等級	対象外 相当				
影響範囲の割合	0.0%	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%		
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%		
		太陽光	.5kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kWh
BEI/BEI _m	再エネ有	0.49	無	0.49	オフサイト再エネ有	-	○□◇/年
一次エネルギー削減率	再エネ有	#####	無	#####			
雨水利用率	0.0%						
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-		
使用比率	100.0%						
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)					
見付面積比	1048%	隣接間隔指標Rw	-				
地表面对策面積率	31.0%	屋根面对策面積率	1.0%	外壁面对策面積率	0.0%		
見付面積S _b	25.193m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	200m	基準高さH _b	12m		
緑地	1.897m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	m ²
				再帰性反射対策面	m ²		